

## 「わくわく」について話し合った代表委員会

昨日4日(火)の朝の活動の時間に、今年度初めての代表委員会が開かれました。代表委員会は、高学年を中心とした、各学級の代表、各委員会の代表、運営委員会によって組織します。また、必要に応じて各クラブの代表やたてわり班の代表等の参加も考えられます。代表委員会は、自治的、自発的に自分たちの学校生活をよりよいものにするために、話し合うことによって、学校の文化を醸成していくのです。



昨日の議題は、3年目の取り組みになる「全校かくれんぼをやろう」でした。提案理由に、「みんなの意見から、全校かくれんぼの内容をグレードアップすることで、より縦割り班の仲が深まることになり、児童会目標の『共に励まし合い』に近づけると思うから(一部省略)」とあります。この提案理由を拠り所に、白熱した議論を行っていました。話し合ったことは、「鬼は誰がやるか」、「もっと楽しめるような工夫」などです。事前に各学級で意見を集約し、それを代表委員会の話し合いに反映させていました。「縦割り班の代表の子供が鬼の役をすると提案理由の中の『縦割り班の仲が深まる』ことにはならない。」「企画委員会さんが頑張っているから、みんなで『イエローカード』のアイデアを尊重して協力すべきだ。」など意見が交わされました。

昨年度の体験を、今年度も生かしつつ、新たな発想を加えて、もっとわくわくした「全校かくれんぼ」になると思っています。12月20日(金)に予定されていますので、今回の話し合いを基に、さらに企画委員会が練り上げて準備してくれることを楽しみにしています。今から楽しみで「わくわく」します。

## プロから学ぶ 放送委員会

今日4日(水)の6時間目は委員会活動がありました。委員会の中の一つ、放送委員会に元 RKK アナウンサーの二子石隆一さんをお招きして、放送の在り方について学びました。ちなみに二子石さんは、本校の学校評議員でもあります。まず、放送とは「伝えること」とアドバイスをしてもらいました。テレビは、カメラに向かって話しますが、ラジオはマイクに向かって話すので、



どちらかと言えば放送室に似ています。そこで、マイクを通じて、教室のスピーカの向こう側にいる友達や先生のことを頭に浮かべながら「伝える」イメージを持って欲しいとのことでした。次に「伝えること」を意識したゲームや、鼻濁音の発生の仕方なども教えていただきました。例えば「学校」は「ガッコウ」と濁点が先頭に来るので、そのまま発音してもいいのですが、「小学校」は「ショウガッコウ」と文字中に濁点があるので、その場合の「ガ」は「カ<sup>o</sup>」と鼻濁音で発音することなど学びました。子供たちも「鼻濁音を使ったやり方はとても参考になりました。これからの放送に生かしたい。」と感想を述べていました。今回の経験は、明日からの放送の仕事にきっと役立つと思っています。学校の音環境の充実の為に、たくさんの方を教えていただいた二子石さんに感謝します。